第一回

琉球・中国交渉史に関するシンポジウム

論文集

豊見山和行 氏

兪　玉儲 氏

戈　斌 氏

濱下　武志 氏

秦　国経 氏

和田　久徳 氏

歓迎会での懇談

1992年 8 月30日

シンポジウム開催に際して

沖縄県教育委員会教育長　津留　健二

本日ここに第一回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムを開催するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

さて、御承知のとおり日・中両国は、これまで隣国として長い友好の歴史をもっております。特に琉球の場合は、察度王が洪武帝の招諭を受け入れて中国に朝貢してより現在まで、およそ六〇〇年余りにわたる交流の歴史があります。その間、琉球は中国との交易や人物の往来等を通じて中国の高度に発達した文化を摂取受容し、一個の王国として発展してきました。

本シンポジウムは、一九九一年に沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案館との間で正式調印された歴史資料の相互交換と学術交流の促進に関する覚書にもとづいて行われるものでありますが、そのねらいは、日・中の研究者が特にテーマを明清時代における中国と沖縄の歴史資料に関する研究に限定し、日・中共同で、沖縄と中国の歴史的関係について理解を深めることにあります。

本シンポジウムには、今回、中国側から秦先生を代表とする五名の先生方が参加して下さいました。ここに心から歓迎の意を表する次第であります。又、日本側からは二名の先生方が御発表になり、さらに和田先生には御講演をお願いしているところでございます。御発表・御講演をお引き受け下さいました日・中両国の先生方に対し、厚くお礼を申し上げます。

ところで、琉球・中国交渉史につきましては、これまで多くの研究者の御努力によってその全容がかなり明らかになっております。しかしながら細部につきましては、必ずしも十分とはいえない面があります。本日、日・中の研究者が初めて一堂に会し、それぞれの御専門のお立場から琉球・中国交渉史についての共通理解を深められることは、日・中の学術交流を促進する上でまことに画期的なことであり、又、きわめて有意義なことだと考えております。どうかこの機会にじっくり討論を重ねられ、本シンポジウムが多大の成果を収められますよう御祈念申し上げまして、あいさつといたします。

一九九二年八月三十日